

2 中学校における参考事例

< A 表現 >

(1) 歌唱の活動を通して

* 中学校学習指導要領「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」より

(1) イ 変声期について気付かせるとともに、変声期の生徒に対しては心理的な面について配慮し、適切な声域と声量によって歌わせるようにすること。

ウ 相対的な音程感覚などを育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。

(3) 我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導については、言葉と音楽との関係、姿勢や身体の使い方についても配慮すること。

(4) 読譜の指導については、小学校における学習を踏まえ、＃や♭の調号としての意味を理解させるとともに、3学年間を通じて、1＃、1♭程度をもった調号の楽譜の視唱や視奏に慣れさせるようにすること。

第1学年 A 表現 (1) 歌唱

題材名「拍の流れとフレーズ」 教材名「浜辺の歌」

【第1学年の目標】

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てる。
- (3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

【第1学年の歌唱の指導事項】

- ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。
- イ 曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。
- ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

【教材について】

「浜辺の歌」は、浜辺に打ち寄せる波の情景を表すような伴奏に支えられた、叙情的な歌詞と旋律をもつ楽曲である。例えば、拍子や速度が生み出す雰囲気、歌詞の内容と強弱の変化との関係などを感じ取り、フレーズのまとまりや形式などを意識して表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア

- ・叙情的な歌詞の内容や打ち寄せる波を表すような伴奏の特徴などを感じ取り、楽曲に対して表現したい思いや意図を持つ。
- ・楽曲をどう歌うかという思いや意図を表現するために、拍子や速度に着目して歌ったり、歌詞の内容と強弱の変化について気付いたりするとともに、それらを表現するために体の使い方等の技能を身に付ける。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<p>○ 歌詞から楽曲の情景を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none">・教科書の注釈などを参考にしながら文語的な歌詞の内容を理解し、朝と夕の違いを理解する。・「どのような景色が広がっているのか」「歌詞の主人公がどんな気持ちでいるのか」などについて友達と意見交換しながら、曲へのイメージを持つ。・歌詞から、「静かな曲だと思う」「ゆったりした旋律ではないか」など、どのような曲かを想像する。 <p>○ 歌に親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none">・音楽を形づくっている要素を知覚感受しながら歌う。・速さの変化をいろいろ試す。	速度

<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽曲の特徴をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律が反復されている部分に注目させるなどして、楽曲の構成を知る。 ・八分の六拍子であることを押さえるとともに、それにのる旋律のフレーズのまとまりを感じ取る。 ・歌唱部分だけでなく、伴奏の特徴（似た旋律が波のように繰り返されているなど）にも気付かせる。 ○ 歌詞や旋律など全体の印象から、この曲をどのように表現したいかという思いや意図を持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・拍子，速度，強弱，旋律の動き，歌詞の内容など，曲全体から受けた感じや心に残った部分などについて，自由に意見交換する。 ・旋律と伴奏の変化に気付かせ，曲の山場やゆったりした感じをつかませる。 ○ 曲想の工夫をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・音が半音ずつ上がっている部分（第3フレーズ，G，G\sharp，A）に注目して歌う。 ・歌詞を基に，朝と夕の雰囲気の違いを生かした歌唱の仕方を工夫する。 ・歌詞と旋律，全体の響きなどを一体的に感じ取ることを通して，音楽を形づくっている要素の働きを見付ける。 ・楽譜に書かれている音楽記号を見ながら範唱を聴き，その記号が具体的にどう歌われているのかを感じ取る。 ・音楽記号がなぜそのように付けられているのか，それによって曲想がどのようになっているのかなどについて考えたり，意見交換したりする。 ・楽譜に書かれている音楽記号について調べ，名前や意味を知る。 ○ お互いに聴き合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想表現に気を付けながら，グループごとに歌ったり独唱したりする。 ・歌い手はどのような点に注意して歌うかを聴き手に知らせ，聴き手は注意した点が技能的に表現されているかを聴き取る。 	<p>旋律 拍子</p> <p>旋律 構成</p> <p>強弱 速度 フレーズ</p>
--	---

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の言葉の意味，歌詞が表す情景や心情に関心を持ち，表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律，フレーズ，速度，拍子，強弱，構成などを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら，歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声，言葉の発音，呼吸法，身体の使い方など）を身に付けて歌っている。

「拍」や「拍子」について

「拍」は、音楽を時間の流れの中でとらえる際の基本的な単位である。小学校の音楽科における「拍の流れ」の学習の上に立ち、例えば、拍が一定の時間的間隔をもって刻まれると拍節的なリズムが感じられることや、拍を意識することによってリズムや速度などの特徴を生かして表現を工夫することなどが考えられる。

「拍子」は、音楽を時間的なまとまりとしてとらえる際の手掛かりとなるものである。例えば、三拍子と六拍子の働きが生み出す特質や雰囲気の違いを感じ取り、表現や鑑賞の活動を行うことなどが考えられる。

中学校学習指導要領解説 音楽編 pp. 67-68

第2学年 A 表現 (1) 歌唱

題材名「情景を表現しよう」 教材名「夏の思い出」

【第2学年及び第3学年の目標】

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- (3) 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第2学年及び第3学年の歌唱の指導事項】

- ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。
- イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。
- ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

【教材について】

「夏の思い出」は、夏の日の静寂な尾瀬沼の風物への追憶を表した叙情的な楽曲である。例えば、言葉のリズムと旋律や強弱とのかかわりなどを感じ取り、曲の形式や楽譜に記された様々な記号などをとらえて、情景を想像しながら表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア

- ・曲の流れや歌詞の内容から、「美しい日本の自然」のイメージを膨らませる。
- ・美しい自然や夏の日の思い出をしみじみと味わっている様子を、歌詞や旋律、強弱から感じ取って歌唱表現を工夫する。



水芭蕉

夏の思い出

作詞 江間章子
作曲 中田喜直

一、夏がくれば 思い出す
はるかな尾瀬 遠い空
霧のなかに うかびくる
やさしい影 野の小径
水芭蕉の花が 咲いている
夢みて咲いている 水の辺り
石楠花色に たそがれる
はるかな尾瀬 遠い空

二、夏がくれば 思い出す
はるかな尾瀬 野の旅よ
花のなかに そよそよと
ゆれゆれる 浮き島よ
水芭蕉の花が におっている
夢みてにおっている 水の辺り
まなこつづれば 懐かしい
はるかな尾瀬 遠い空

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞の内容を理解しながら範唱や参考演奏を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに美しいと感じた風景で、特に印象深かった点について話し合う。 ・ 曲の感じをつかみ、情景を想像しながら聴く。 ・ どういう情景を歌ったものか、場面について話し合う。 ・ 尾瀬沼で水芭蕉の花が咲いている写真を見て、詩の内容と重ねる。 ○ 旋律を覚える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相対的な音程感覚を育てるために、移動ド唱法を用いて、楽譜を見て音高などを適切に歌う。 ・ 楽譜中の休符に着目して、正確に旋律を歌う。 ・ <i>pp,p,mp</i> など、弱くてもしっかり響く声で歌えるようにする。 ○ 言葉と旋律の関係を感じ取り、表現を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 抑揚や間を工夫しながら詞を朗読するなど、旋律の流れや休符を意識して歌唱する。 ・ 「水芭蕉の花が 咲いている 夢見て咲いている 水の辺り」の細かな強弱記号などを確認し、「咲いている」や「水の辺り」の歌い方の工夫する。 ※ppが付いているから弱く歌うというのではなく、なぜその部分に記号が付けられたのかを考えたり、どの程度の音量、どのような音色、言葉の発音で歌ったらよいかを実際に試したりする活動も大切になる。 ・ 「はるかな尾瀬 遠い空」（3～4小節目）と（最後）は同じ歌詞であるが、旋律、強弱、フェルマータやテヌートなどによる違いを知覚し、曲想や歌詞に込められた思いを感じ取って表現を工夫する。 ○ 適切な速度で歌ったり、伴奏の変化を味わったりしながら歌唱する。 ○ 学級を二つに分けるなどして、互いの表現の仕方を聴き合う。 	<p>旋律</p> <p>強弱</p> <p>構成</p> <p>速度</p>

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の内容や曲想に関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声、言葉の発音、呼吸法、身体の使い方、読譜の仕方など）を身に付けて歌っている。

～作曲者の言葉から～

この曲を作曲した中田喜直は、このメロディをつけた当時、「尾瀬」に行ったことがなかったそうです。

「まだ行ってないんです。作曲の時は、詞からくるイメージだけでつくった。作詞の江間さんが女性だし、女性にぴったりくる叙情的で美しいメロディだけを考えていました。今の尾瀬は女性が多いんですね。珍しく曲がぴったり合ったものです。」

（毎日新聞学芸部「歌をたずねて」音楽之友社 1983, p.200）



第3学年 A 表現 (1) 歌唱

題材名「歌詞と音楽との関わり」 教材名「花」

【第2学年及び第3学年の目標】

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- (3) 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第2学年及び第3学年の歌唱の指導事項】

- ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。
- イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。
- ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

【教材について】

「花」は、「荒城の月」とともに滝廉太郎の名曲として広く歌われている。春の隅田川の情景を優美に表した楽曲である。例えば、拍子や速度が生み出す雰囲気、歌詞の内容と旋律やリズム、強弱とのかかわりなどを感じ取り、各声部の役割を生かして表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア, ウ

- ・七五調の歌詞と音楽との関わりを味わいながら、日本の代表的な歌曲を歌い味わう。
- ・二重唱の美しい響きや面白さを感じ取り、互いの声部の役割を理解しながら歌い合わせる。

花

作詞 武島羽衣
作曲 滝廉太郎

一、春のうららの隅田川

のぼりくだりの船人が
櫂かいのしずくも花と散る
ながめを何に たとうべき

二、見ずやあけぼの露浴びて

われにも言う桜木を
見ずや夕ぐれ手をのべて
われさしまねく青柳を

三、錦おりなす長堤に

くるればのぼるおぼろ月
げに一刻も千金の
ながめを何に たとうべき

<p>○ 中間部（わたしもいちまいの葉にすぎないけれど～わたしだけの名で朝に夕に）の表現を工夫して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を読み，歌詞の内容を理解したりイメージを深めたりする。 ・旋律，強弱，テクスチャなどを知覚・感受し，歌詞の内容と関わらせながら，音楽のエネルギーを線や色で表すなどして表現を工夫する。 	<p>旋律 強弱 テクスチャ</p>
<p>（音楽のエネルギーグラフの例） ※音の高さではなく，気持ちの高揚をエネルギーとしてグラフにしていく。</p>	
	
<p>わたしもいちまいの葉にすぎないけれど あつい血の樹液をもつ にんげんの歴史の幹から分かれた小枝</p>	
<p>・ユニゾンの部分を女声だけ，男声だけ，混声で歌ってみたり，「人間の歴史の～」のハーモニーの部分をユニゾンで歌ってみたりして，それぞれのよさを知覚・感受しながら歌い方を工夫していく。</p> <p>○ 後半部（ルルル～最後）の表現を工夫して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（ルルルの部分の）各パートの旋律や伴奏を聴き合い，それぞれのよさや面白さを伝え合う。 ・（ルルルの部分の）アクセントやスタッカートをつけたり無くしたりして違いを知覚・感受し，表現を工夫する。 ・転調に着目し，その前後の歌詞の内容や音楽の特徴からその効果について考える。 ・歌詞を読み，歌詞の内容を理解したりイメージを深めたりする。 ・女声「だから私…」 男声「名づけられた葉なのだから…」のバランスを聴き合いながら，歌詞と旋律や強弱との関わりを考え，曲のクライマックスにふさわしい表現を工夫する。 <p>○ 全体を通して歌い，多様な合唱による表現を楽しみながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の流れや前半，中間，後半のつなぎ方などを意識しながら，自分たちの合唱表現を見つめ，よりよい合唱にしていく。 	<p>音色 リズム 旋律 テクスチャ 強弱</p>

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想に関心を持ち，曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ・声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち，音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音色，リズム，旋律，強弱，テクスチャを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，歌詞の内容や曲想を味わったり，声部の役割と全体の響きとの関わりを理解したりして曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想を生かした，曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声の仕方や言葉の発音，呼吸法などを身に付けて歌っている。 ・声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。

第2学年 A 表現 (1) 歌唱 B 鑑賞

題材名「歌舞伎音楽のよさや美しさを味わおう」教材名「長唄『勧進帳』」
ながうた かんじんちょう

【第2学年及び第3学年の目標】

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- (3) 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第2学年及び第3学年の歌唱の指導事項】

【第2学年及び第3学年の鑑賞の指導事項】

- ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。
- イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。
- ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

- ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
- イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。
- ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → 歌唱 イ 鑑賞 ア, イ

- ・歌舞伎音楽の特徴を理解し、日本の伝統に親しむ。
- ・歌舞伎における長唄の役割や表現効果を理解しながら鑑賞する。
- ・長唄の声の出し方や特徴を感じ取りながら歌唱表現する。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<p>○ 歌舞伎や「勧進帳」に興味・関心を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台の様子、見得、衣装、隈取（化粧）、楽器の演奏や歌い方など、生徒が興味を持ちそうな要素を取り上げて歌（音楽）・舞（舞踊）・伎（演技）の特徴をつかむ。 ・「勧進帳」のあらすじを理解する。 ・社会科の学習と関連付けながら、歌舞伎が発達した歴史的背景を調べる。 <p>○ 「勧進帳」のあらすじと実際の舞台の様子がつながるよう映像を視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「富樫の登場場面」「義経一行の登場場面」「勧進帳を読みあげる場面」「弁慶が義経を討つ場面」「『延年の舞』を舞う場面」「飛び六法で退場する場面」など、あらすじがわかりやすい場面を選び鑑賞する。 ・あらすじを確認しながら「勧進帳」の舞台の流れを理解する。 	

「我が国の伝統的な歌唱」とは…

我が国の各地域で歌い継がれている仕事歌や盆踊り歌などの民謡、歌舞伎における長唄、能楽における謡曲、文楽における義太夫節、三味線や箏などの楽器を伴う地歌・箏曲など、我が国や郷土の伝統音楽における歌唱を意味している。

教材の選択に当たっては、これらの伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取れるものを選択していくことになる。伝統的な声の特徴を感じ取るためには、例えば、発声の仕方や声の音色、コブシ、節回し、母音を延ばす産字などに着目することが考えられる。生徒が実際に歌う体験を通して、伝統的な声の特徴を感じ取ることができるよう、地域や学校、生徒の実態を十分に考慮して適切な教材を選択することが重要である。

指導に当たっては、例えば、声の音色や装飾的な節回しなどの旋律の特徴に焦点を当てて、比較して聴いたり実際に声を出したりして、これらの特徴を生徒一人一人が感じ取り、伝統的な歌唱における声の特徴に興味・関心をもつことができるように工夫することが大切である。その際、視聴覚機器などを有効に活用したり、地域の指導者や演奏家とのチーム・ティーチングを行ったりすることも考えられる。

中学校学習指導要領解説 音楽編 p.34

歌唱共通教材の指導の一例

「赤とんぼ」は、日本情緒豊かな曲として、人々に愛されて親しまれてきた楽曲である。例えば、拍子や速度が生み出す雰囲気、旋律と言葉との関係などを感じ取り、歌詞がもっている詩情を味わいながら日本語の美しい響きを生かして表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

「荒城の月」は、原曲と山田耕筰の編作によるものがある。人の世の栄枯盛衰を歌いあげた楽曲である。例えば、歌詞の内容や言葉の特性、短調の響き、旋律の特徴などを感じ取り、これらを生かして表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

「花の街」は、希望に満ちた思いを叙情豊かに歌いあげた楽曲である。例えば、強弱の変化と旋律の緊張や弛緩との関係、歌詞に描かれた情景などを感じ取り、フレーズのまとまりを意識して表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

「早春賦」は、滑らかによどみなく流れる旋律にはじまり、春を待ちわびる気持ちを表している楽曲である。例えば、拍子が生み出す雰囲気、旋律と強弱とのかかわりなどを感じ取り、フレーズや曲の形式を意識して、情景を想像しながら表現を工夫することなどを指導することが考えられる。

(中学校学習指導要領解説音楽編 pp.59-60 より)
他の3曲は、各教材のページに掲載しています。